

### 現在の漢字の教え方の誤りとは

今、小学校の六年生は、一年間に 190 字の漢字を学ぶに過ぎません。小学校では、一年間に 200 字の漢字の学習さえ難しいと考えているわけです。私も実験していますが、五、六年生になると、一年間に 200 字の漢字を習得することが非常に困難になります。頭の良い子は容易に習得しますが、中以下の子どもには、200 字の漢字を一年間に習得することは実に難しい。ところが、二、三歳の幼児だったら年間 300 や 400 の漢字は容易に覚えます。精薄の子どもでも苦勞しないで覚えます。たとえば、『親こそ最良の教師』で報告しております愛子ちゃんという子ども、この子はひどい脳障害で一年かかっても仮名が一文字も覚えられなかったのですが、この子が年間 200 字の漢字を覚えているのです。仮名は一文字も覚えられない。しかし、漢字だと 200 の漢字が一年間に覚えられます。それはもうひどい重度の脳障害児なのですが、それでも漢字は習得出来る。漢字教育というものが、今のような形態で行なわれる限り、非常に難しい。年間 200 字が覚えられないのですから。

しかし、これが幼児期ですと容易になります。私は一年生に 600 字も教えた経験があります。それでもほとんどの子どもが苦しまずに覚えてくれました。漢字を覚える能力は、幼ければ幼いほど高いのです。故・時実利彦先生が「一生のうちで最も吸収力の強い時期は零歳から三歳までの三年間であろう」ということを言っている。生後の三年間が一番吸収力は強いのではないか、というのが大脳生理学から見た見解であります。私の幼児に対する実際指導の結果でも、全くそのようになっております。

今、二歳からの幼児に対していろんな実験を試みておりますが、二歳、三歳という子どもはちっとも努力しないで、提出された漢字カードを、いつともなく、すらすらと覚えてそれを読むようになります。確かに幼児期というのはすばらしい能力を持った時期です。ところが、この時期には漢字教育など全く無理だという考えで幼児期を全く無為に過ごしてしまっています。そして学校に入ってから、それも私に言わせれば一番よく覚える一年生には漢字を教えるより先に仮名を教えているのです。